



友好の日本酒「朋」完成

飛騨市と台湾・新港郷 提携1周年記念

渡辺酒造店、市長に披露



友好都市提携を結んだ。

友好の酒「朋」のプロジェクトは都竹淳也市長が発案し、市が2月に酒米「ひだほまれ」の種もみを贈った。交流の中心となってきた新港郷のまちづくり団体「新港文教基金会」が栽培し、52キを収穫。市から依頼を受けた同酒造店が、飛騨産のひだほまれも加えて精米し、720ミリ瓶80本分のにごり酒を醸造した。

10日に同酒造店の渡辺久憲社長や同基金会事務局長の徐家璋さんらが市役所を訪れ、都竹市長に完成品を披露した。

飛騨市は旧古川町時代から新港郷と交流しており、昨年10月に

飛騨市古川町老之町の渡辺酒造店は、同市と台湾・新港郷の友好都市提携1周年を記念した日本酒「朋」を完成させた。酒米は飛騨市から贈り、新港郷で栽培されたものを使用。日台友好の証として、12日夜に同市で開かれる交流会などで振る舞われる。

飛騨市と台湾・新港郷の友好の酒「朋」を掲げる渡辺久憲社長(右)と徐家璋さん(左)飛騨市役所

露した。

渡辺社長は「辛口でコクのある味に仕上がった」

「良かった」。徐さんは「氣て本当によかった」と候が違うので栽培に話した。

苦労したが、酒ができた。

(古宿博史)